

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和3年度第2回加東市商工業振興協議会
開催日時	書面発出日：令和3年10月29日(金) 意見聴取日：令和3年11月11日(木)
開催場所	書面会議
出席及び欠席委員の氏名	なし
説明のため出席した者の職氏名	なし
出席した事務局職員の氏名及びその職名	なし
1 書面内容	(1) 議題 「市内事業所等の消費喚起施策について」(会議資料のとおり) (2) 議題提案に対する委員の取組案一覧(別紙1のとおり)
2 会議結果	書面開催の結果、取組案に対して各委員から意見聴取した(別紙2のとおり)。これらの意見を踏まえた上で、次回開催予定の対面の協議会にて取組施策を協議する。

令和3年 11月22日

会長 宮崎良平  
副会長 長沼恒雄

No.	取組案・提案	意見
1	<p>「周遊するモデルとなるルートをより多く、来訪者の目線に立って作成」すること。 市内への観光の来訪者は、目的地の周辺で周遊できるルートを知りたいはずである。そのモデルとなるルートがあり、web等で簡単に検索できれば調べる手間が省かれ、来訪されやすくなる。より魅力的な場所が多ければ、来訪先として選択してもらいやすくなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者の目線に立つと、周遊するモデルルートがあった方が良い。</li> <li>・商工業と観光のリンク、インターネットの活用が良いと思います。</li> </ul>
2	<p>①加東アート館 及び ②加東観光ナビ（義経伝説スタンプラリー）と ③加東市商工会作成の「加東うまいもんテイクアウト（冊子とホームページ掲載）」及び ④加東市観光協会作成の「加東を贈るおみやげ」 を連携させること。 具体的には、③及び④の冊子を、加東市アート館や義経伝説スタンプラリーのポイント地点に設置し、来訪者が持ち帰れるようにする。また、①及び②に、③及び④の情報をweb上でリンクさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市、商工会、観光協会を連携させる事が第一だと思う。</li> <li>滝野・社インターでおり市内を巡り東条インターから帰るルートを示すべきである。市内にインターが2ヵ所ある市は無いと思う。</li> <li>チラシや冊子もいいが、その前にそこへだどりつくべきSNSや大型立て看板で高速道路から見えるもの。</li> <li>・既存の取組を活用した観光と商工業の連携を目指す為。</li> </ul>
3	<p>市内小学生全員に、地元には加東アート館があることとどんな体験ができるのか、知ってもらいたい。市内小学生向けのタブレットを用意して、自身で加東観光ナビを使用できるようにすれば、興味を持って体験できるようになると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「AR」の町を是非広め、県下でARの町として先に有名にする。</li> <li>子供達が楽しむ様子は今ならニュースになる。</li> <li>義経伝説だけでなく、例えば山田錦物語やゴルフのイロハなど益々広げていけると思う。</li> </ul>
4	<p>道の駅とうじょうでの情報発信の拠点として力をいれること。京阪神方面から車で来訪者が立ち寄る可能性が高い場所なので、発信力を強化すれば自然とPRとなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅が最も外の観光客に接する機会が多いと思われる。</li> <li>・道の駅のトイレ東側にスケボー練習場を設けて駐車場付きとし、トイレは両方で利用できる。</li> <li>・市、商工会、観光協会を連携させる事が第一だと思う。</li> <li>滝野・社インターでおり市内を巡り東条インターから帰るルートを示すべきである。市内にインターが2ヵ所ある市は無いと思う。</li> <li>チラシや冊子もいいが、その前にそこへだどりつくべきSNSや大型立て看板で高速道路から見えるもの。</li> </ul>

5	<p>若者目線での観光PR方法の企画するため、京阪神周辺の県内大学に通う学生の参加を募り（キャリアセンター・ゼミ・研究室等）、コンテスト形式（1日）もしくはフィールドワーク形式（1～2ヶ月程度）による企画発表をしてもらう。 具体的な工程は以下のとおり。</p> <p>①加東市を観光 → ②市職員との意見交換 → ③3～4名程度で複数グループを組んでグループディスカッション・企画を発表 → ④講評・賞品贈呈</p> <p>新たな視点・アイデアを取り入れ、ターゲット層が求める観光事業につなげる。 参加学生自身に加東市の魅力を感じてもらい、市内周辺企業へのUターン就職につなげる。 県内大学（キャリアセンター・研究室）のつながりを強化し、今後の産学官連携を活かしたまちづくりにもつなげていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと銀行は、県内大学とのパイプもあり、産学官金が連携して地方創生を実施してはどうか。</li> <li>・若者の意見は取り入れるべきである。</li> </ul>
-		<p>（その他の意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各意見を如何に実行していけるか、その順位付けが大切だと感じる。</li> </ul>